

**保育とソーシャルワーク**  
 ——新たな時代に対応して——

武庫川女子大学 加納光子(000955)

キーワード：保育、教育、福祉

**1. 研究目的**

現在、保育所の保育士は①乳幼児の保育と②保護者への指導、そして③地域の子育て支援としての乳幼児の保育についての相談援助を行う、という3つの業務を担っている。今後の保育には、“ソーシャルワーク機能”が要求されるということで、保育士養成の大学において保育ソーシャルワーカーの養成を目指すべきだという意見もある。また、自治体によっては、地域支援を主な業務とする保育士を置いているところもある。

本研究では、今後の保育所保育（保育所における保育）の方向性を考えるうえで、保育ソーシャルワーク（保育におけるソーシャルワーク）について、誰が、どの職種が担うことが、より良い保育所保育を進めるうえで重要なのかについて考察を加えた。

**2. 研究の視点および方法**

日本においては、ソーシャルワーク機能を担っている専門職として、国家資格である「社会福祉士、精神保健福祉士」が存在している。本研究では、保育所保育におけるソーシャルワーク機能をどのように（どの職種が、どのように）推進すべきであるかについて、ソーシャルワークの機能の視点から研究をおこなった。

方法については、文献とソーシャルワークに関する事例の検討に基づいている。

**3. 倫理的配慮**

文献についてはその出所を明らかにしている。

ソーシャルワークに関する事例は、報告者が行った調査に基づくものであるが、武庫川女子大学学内倫理委員会の承認を得ている

**4. 研究結果**

人を対象とする仕事の領域（福祉、医療、看護、介護、教育など）では、どの領域においても、対象者は、生活——家族その他の、対象者をとりまく状況・環境・社会関係——を伴っているため、どの領域においても、生活を見つめる視点を持った専門職は必要である。生活を見つめる視点を持ち、生活に働きかけていく専門職はソーシャルワーカーである。この調査は、保健領域におけるソーシャルワークの形成過程を追った歴史的、質的研究であるが、人を対象とする領域において、いかにソーシャルワーク専門職が必要であるかを示すことができた。特に、地域組織化、社会資源の創出など、今後、保育領域で必要となってくると思われる事柄が先取的に明らかになっている。

**5. 考察**

社会福祉実践には、専門職による実践と、専門職でない一般の人たちによる実践がある。専門職

実践には、不可視的・非道具的支援であるソーシャルワークと、可視的・道具的支援である、保育、介護がある。従来の社会福祉専門職の領域は、社会福祉の中に、保育も介護も含まれていた感があったが、近年、それぞれの領域の専門職化が進み、大別すると、上述のように保育、介護、ソーシャルワークが考えられる。各領域は‘表’にあるように、保育行為、介護行為、ソーシャルワーク行為という手段によって、各領域の目的である子育て・教育、身体機能補助・代行、社会関係機能改善をはかっている。

表 社会福祉専門職の領域、対象、手段、目的

領域	対象	手段	目的
保育	要保育(含む教育)	保育行為	子育て・教育
介護	身体機能不自由	介護行為	身体機能補助・代行
ソーシャルワーク	社会関係機能不全(≒貧困)	ソーシャルワーク行為	社会関係機能改善

ところで、保育、介護、医療、看護、保健、教育、就労などの対人支援の領域は、当事者の当面する第一義的（保育は‘子育て・教育’、介護は‘身体機能補助’が第一義的）目的に加えて、対象者だけでなく、前述のように、生活に対する働きかけが必要になってくる。これらは、保育の領域でも、浅賀ふさ女史の呼びかけにもあるように、大切なことであり、従来は保育の側でなされてきていた。これらの業務はソーシャルワークの機能を通してなされてきたともいえる。しかし、もっと深いかわりが必要な場合は、保育士という職種が、第一義的な目的である‘子育て・教育’を行いながら、同時に、ソーシャルワークの目的である‘社会関係機能改善’を行うことは難しい。

その理由は、保育もソーシャルワークも、独自の価値と知識と技術を伴った行為の体系をもつ専門職だからである。医療に医療ソーシャルワーカーが、学校にスクールソーシャルワーカーが必要であるように、保育にも、専門的にソーシャルワークを行うことができる保育ソーシャルワーカーが必要である。

本研究は、保育ではなく、保健現場でのソーシャルワーク形成過程を追ったものであるが、その中で、生活を担当する専門職種の参入により、地域組織化、社会資源の創出が可能になって来たことが明らかになっている。今、保育士に要求されている、地域連携など、特に、地域を対象とする領域の、本来的な在り方の良き指針となるのではないだろうか。

“新たな時代に対応する保育”として望まれることは、従来どおりに、栄養士、臨床心理士などとの連携に加えて、新たに、ソーシャルワーク機能を専門的に請け負うことのできるソーシャルワーカーという専門職を置いた、より広い視野に立つ、幅広い保育である。

#### 参考・引用文献

- ・待井 和江「保育施策の変遷と保育士養成の歩み」岩田正美監修、山縣文治編集『リーディングス 日本の社会福祉 第8巻子ども家庭福祉』日本図書センター、2010
- ・その他